

会話記録作成のポイント

- ・録音するわけではないので、正確性は問わない。自分の記憶を頼りに作成する。
- ・実際の事例のすべてを会話記録に起こし出す必要はない。自分にとって気になったり、印象に残った場面だけを抜き出す。
- ・方言を無理に標準語に直す必要は無いが、適宜補足説明をする
- ・日付や場所は次ページの(例)のようにして隠す。個人名も書かない。
- ・() を使って、相手の様子、状況説明などをできるだけ多く加える。
- ・[] を使って、自分の気持ちをできるだけ多く加える。
 - ※提出物にはマーカーや網掛けは不要です。
 - ※ゴシック体を用いなくても構いません。
- ・M5、C14のような記号は、会話記録を分析するために使用するのので、対話相手の番号とずれても構わない。
- ・①所感(自分自身の対応を振り返る)は、素直に感想を述べる。
- ・②このケースに見られる、宗教的／スピリチュアルな文脈(客観的に)は、会話記録を再読して客観的に分析する。
- ・③このケースで気付かされた、自分の信仰・価値観では、なるべく、教学・神学・宗学的な用語を使わないようにする。
- ・A4用紙2枚以内にまとめる。文書のレイアウト、余白、文字数・行数、フォントなどで工夫する。
- ・以下の会話記録(例)は、架空の事例です。

< 会話記録 (例) >

Mさん (60代、女性) (←会話の相手)

C : 東北太郎 (←応募者ご自身)

201X年10月Y日 13:15~13:40 (25分) @仮設住宅の集会所 (宮城県内)

Mさんは、自宅で津波に遭い、2階の天井近くまで浸水。同居していた義理の父は寝たきりで動けず、義理の母とともに水に吞まれて自宅で亡くなる。Mさんの夫は仕事に出かけており、車ごと津波で流され、5ヶ月ほど行方不明だったが、車の中で見つかった。長女夫婦は無事だったが、建てたばかりの家が浸水し、長女は帰りたくないという、仕事場に近い隣町のみなし仮設にいる。長男夫婦は皆無事。

M1 : お父さん (=夫) がなかなかみつからなくて、、、生きててほしいと思ったり、もう諦めようと思ったり、、、じいちゃんとかばあちゃん (=義理の両親) は家で見つかったからいいけど、、、津波が来たときは、一緒に屋根に上がろうと言ったけど、「(津波は) 2階まで来ねえ」って部屋にいて、、、私と隣の奥さんは屋根に上って、そしたら津波が来て。(淡々と話される)

C1 : (ただうなづくだけ) [重苦しい感じ]。

M2 : 浪が引いたら、息子がきてくれて、(ぬかるんで) ズブズブだったけど、それまではとにかく必死で、何考えていたか憶えてない。息子が来たら、ほっとして、涙が出た。(少し、しみじみした感じ)

M3 : お父さんどうしたか、心配で心配で、、、(何か感情が動いているような感じ)

M4 : (遺体) 安置所も何度もいったけど見つからね。8月になって警察から連絡あって。服と、腕時計で分かった。見つかってよかったけど、ああ、生きてなかった。生きててほしかったけど、仕方がない (ためいき)。(寂しげな様子)

C2 : (何も言えない) [見つかったのはよかったけど、、、]

M5 : 子どもたちがいるから、なんとか支えられて、有り難い。葬式も、全部息子がやってくれて、私はもう、どうしていいか、何も考えらんね。でも葬式あげられたから、成仏できる。(見つかったから、まだまだ、という意味か?)

C3 : そうですね。成仏できた。[本気で言ったのかどうか、自分でもあやしい。とりあえず、相手の言葉を繰り返したただけかもしれない]

M6 : そだね。成仏したんだ。(自分に言い聞かせているような感じ)

M7 : でもね、(今年の) 4月に夢にでてきたの (ちょっと嬉しそう)。

C4 : えっ、夢にでてきた。(ちょっと驚く)

M8 : 何も言わねんだけど、いつものしかめっ面でもないし、何で出てきたんだか。

C5 : 心配してるんじゃないですか?

M9 : 成仏してないの?

C6 : いやいや、成仏したから、お母さん (=Mさん) のこと心配して、見守ってるんじゃないですか。[自信をもって伝えてみた]

M10 : そかね。見守ってくれるんかね?

C7 : 見守ってますよ。[C6より強めに]

M11：(ちょっと表情が和らいだ) だといいね。

M12：でも、私はいいから、娘のことが心配でね。そっちを守ってほしいの。

C8：どういうことですか？ [内容が分からない]

M13：娘夫婦が地震の2年前に家建てたの。なのに水に浸かっちゃって。

C9：かわいそうに。 [つらいなあ]

(この後、娘夫婦の話が続く。以下省略)

①所感 (自分自身の対応を振り返る)

はじめはMさんの話に圧倒されて、何も言えなかった。話に飲み込まれたような感じだった。C3あたりから、自分を取り戻した。それはC3の自分の言葉が、中途半端な感じがして、自分が動揺していることに気がついたからだと思う。その反省をふまえて、C6、C7では自信を持って「成仏した」と伝えることができた。

Mさんの義理の両親に対する思いは聞けなかった。罪悪感があるのかもしれないが、話したくないのかもしれないし、あえて尋ねなかった。

②このケースに見られる、宗教的／スピリチュアルな文脈 (客観的に)

- ・Mさんの夫が成仏したかどうかということ。(M5～M11)
- ・成仏したら、生きている人を見守ることができる。(C6～M12)
- ・Mさんには、夫が見つからず、生きていてほしいという思いと、もう諦めるしかないか、という、相反する思いがあった。遺体が見つかったときも、見つかってよかったという思いと、死を確認してしまった(確認したくなかった)という矛盾した思いが混在していた。(M1、M4)
- ・子どもたちに支えられているという思い。感謝。(M2、M5)

③このケースで気付かされた、自分の信仰・価値観

- ・M5で「葬式あげられたから、成仏できる」と言われたとき、自分が葬儀をしたわけではないので、はっきりと答えられない、と思っていたような感じがする。他の宗教者(この場合は、葬儀を執行した方)を信頼していない自分がいたことが分かる。
- ・Mさんに限らず、遺族にとって「成仏したかどうか」は大切な問題で、本当のことは分からないとしても、宗教者としては「成仏しました」と言ってあげるべきなのだと思う。
- ・C6の「成仏したから、見守ってる」という言葉には自信があった。自分の信仰においてこれは強い思いである。
- ・この思いをMさんに伝えて、Mさんの表情が和らいだ時は嬉しかった。役に立てたことが嬉しかった、ということは、私には「役に立ちたい」という思いがあるということである。傾聴活動を続けるには「役に立ちたい」という思いは必要だと思うが、これを追い求めて、押し売りにならないように気を引き締めたい。